

平成30年12月12日（水）

午後 1時30分 開会

午後 1時40分 閉会

場所 : 全員協議会室

〔報告案件〕

1 在住外国人向け生活ガイドブック作成事業の変更について

竹部益世企画部長：資料に基づき説明

久世孝宏議員：「やさしい日本語」について、学問的な大きなルールがありますが、（ガイドブック作成にあたり）その基準をどのように保っていくのか。具体的に言いますと、誰がガイドブックを作成して、どのように「やさしい日本語」を使うのか。私も「やさしい日本語」について少し調べてみたのですが、明確にされていない、使う人の解釈によるような点を感じられた。その辺りの質の確保を市がどのように考えているかを説明してください。

竹部益世企画部長：日本福祉大学の日本語教育センターのバックアップを受けて作成することを考えており、「やさしい日本語」について研究をされている先生の助言を受けながら進めていく予定です。作成後に内容を見直すことも想定され、その際もその先生にご助言をいただくことを考えています。

久世孝宏議員：大学で専門にされている方と一緒に作っていくということで理解しました。もう1点、質問というより要望ですが、スマートフォンで変換できる言葉の使用など、受けて側が手軽に読めるような仕組みをご検討いただきたい。

竹部益世企画部長：翻訳する場合も「やさしい日本語」の方が翻訳しやすいと思いますし、作成にあたってはそういった配慮もしながら進めていきたいと考えています。

中川健一議員：「やさしい日本語」を使用し、この冊子はどのような外国人をターゲットにしていますか。入国してすぐの方、又は日本にきて半年ほど経つなどある程度日本語を学んでいるような方、対象により内容も変わってくると思います。

竹部益世企画部長：狙いとしては、中長期、これからも日本に、半田市に住もうと考えている人です。入国してすぐ、と言うより、ある程度日本語を学ばれてきた方を考えています。

中川健一議員：入国して日が浅い方がトラブルが多く、そういった方が（ガイドブックを）必要としていると思います。そういった観点から考えると「やさしい日本語」での表記は真のニーズに対応しているのか疑問を感じます。外国人の方はスマートフォンの所有率も高いと思いますので、本を作成するのではなく、ホームページで六か国版のものを掲示することで印刷費等のコストもカットでき合理的ではないでしょうか。

竹部益世企画部長：これがないと生活できないというものではありません。中川

議員は技能実習生をイメージされての発言だと思いますが、その点については雇用者である事業者の方としっかり調整や説明を行うことで対応していきたいと考えています。また、愛知県の調査で7割から8割程度の外国人の方が日本語を読むことができるとの結果が出ていますので、(このガイドブックで)多くの外国人の方に情報をお届けできると思います。

鈴木幸彦議員：発行部数が当初計画の五千部から二千部に減っている。これは市費で賄うことによる予算の問題か、若しくは二千部あれば必要な方たちに行きわたるといふ考えか説明してください。

竹部益代企画部長：ガイドブックは転入時の配布を考えており、この冊数で2年分程度になると見込んでいます。当初は2年より長い期間を考えていましたが、今回の表記の変更などで今後見直し等が必要になることも考え二千部としました。不足が生じれば庁内印刷等で対応します。